

三菱UFJリースグループの事業

三菱UFJリースグループは、リース・ファイナンスをコア事業として、多彩な事業をグローバルに展開しています。



1 リース・ファイナンス

工場の工作機械や熱源設備、店舗設備などのファイナンスリースやオペレーティングリースにより、お客さまの設備投資をサポートしています。また、ファイナンス機能に合わせて資産管理などの関連サービスを提供することで、事務処理のアウトソーシングや経営管理などもお手伝いします。

2 レンタル

情報関連機器や工作機械など、多様なレンタルニーズに対応しています。

3 中古機器売買

リース事業で培ってきた「モノ」に対する知見を活かしながら、高い専門性を持つグループ会社を通じて、良質な中古の工作機械、医療機器や情報関連機器などの売買ビジネスを展開しています。

4 その他のサービス

販売支援ファイナンスサービスや資産管理サービス、各種保険のコンサルティングなどを通じ、お客さまの多様なニーズに対応します。

5 航空

航空機リースやエンジンリースに加え、エンジンのパーツアウトや日本版オペレーティングリースなど幅広いサービスを提供しています。

6 不動産

お客さまの仕様に合わせて建物を建設し賃貸する不動産リースや、オフィス・商業施設・住宅・物流施設などの収益不動産を対象とする証券化ファイナンスに加え、ハンズオンで築年数の経ったビルの価値を高める不動産再生投資、さらに私募REITの運用などを行う不動産アセットマネジメントなど多彩なサービスを提供しています。

7 ロジスティクス

海上コンテナリースや鉄道貨車リース、船舶ファイナンス、自動車を中心としたモビリティサービスなど、グループネットワークや他社との提携を活かしたアセットファイナンスサービスを提供しています。

8 環境・エネルギー

太陽光発電事業を主軸とした各種再生可能エネルギービジネスへの投融資をはじめ、太陽光発電の新しい自家消費形態として注目される屋根置きソーラー PPAモデルの展開や次世代のエネルギーマネジメントシステムであるVPP(Virtual Power Plant) 構築に向けた実証参画など、さまざまな機能を組み合わせながら多種多様な環境ソリューションの提供に取り組んでいます。

9 ヘルスケア

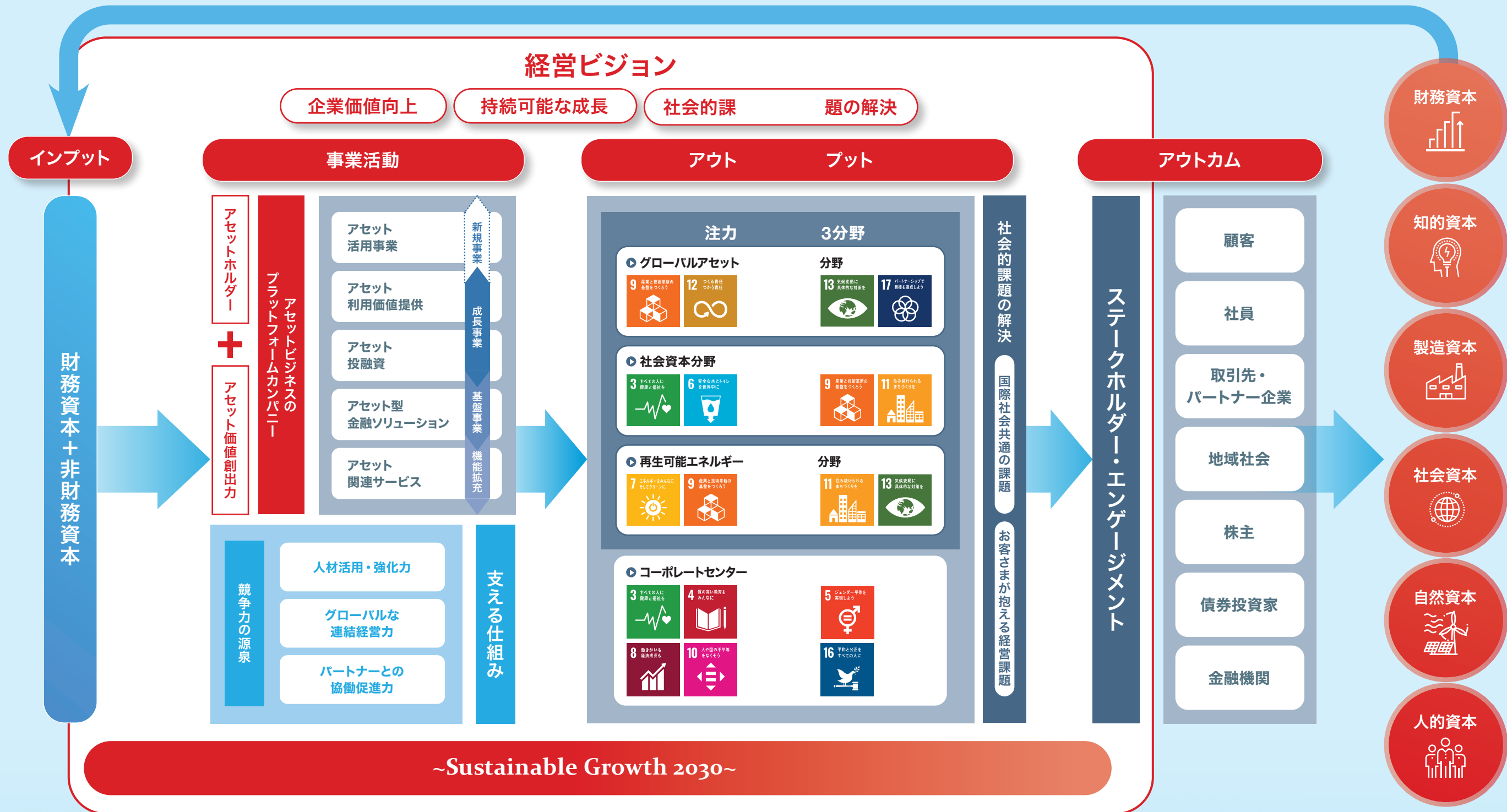
医療機器リース、病院・クリニックの開業支援、診療報酬債権ファクタリング、医療機器導入・経営コンサルティング、医療機器の中古販売、医療モールの運営などアセットファイナンスから経営支援まで幅広いサービスを複合的に提供しています。

10 インフラ・企業投資

国内外のインフラ事業へのファイナンス・ソリューション提供や、公共施設の建設・運営に民間の資金やノウハウを活用するPFI(Private Finance Initiative) 事業に加えて、これまで蓄積した知見・経験を活かした企業投資ビジネスを展開しています。

三菱UFJリースグループの価値創造プロセス

三菱UFJリースグループは、「アセットビジネスのプラットフォームカンパニー」として、中長期的な外部環境の変化を見据えて「国際社会共通の課題」や「お客さまが抱える経営課題」といった社会課題の解決に向け、財務資本・非財務資本の価値創造に注力することで、「企業価値向上」「持続可能な成長」「社会的課題の解決」を実現していきます。



三菱UFJリースグループの事業展開

経営計画に基づく積極的な事業展開によって描かれる確かな成長軌道

三菱UFJリースグループは、2007年4月にダイヤモンドリース株式会社とUFJセントラルリース株式会社の合併で誕生して以来、リース・ファイナンスの枠に留まらない積極的な事業展開や、買収・提携などのノンオーガニックな戦略により、大きな成長を遂げてきました。新中期経営計画～Sustainable Growth 2030～では、本中期経営計画期間を「10年スパンの環境変化予測を踏まえた長期戦略の最初の3年間」と位置付け、持続的な成長を目指します。

経営目標と実績

当期純利益：
450億円以上 ➡ 531億円
海外資産比率：
30% ➡ 34.2%

経営目標と実績

当期純利益：
630億円以上 ➡ 707億円
ROA：
1.1%以上 ➡ 1.2%

経営目標

当期純利益：
850億円以上
ROA：
1.3%程度

中期経営計画
「Vision 2010」
2009年3月期-2011年3月期

- ・バリューチェーン上の提供機能拡大と多様なアセットリスク・事業リスクテイクによるMULならではのサービスを提供
- ・グローバルベースでの事業展開の加速
- ・顧客接点の強化
- ・外部成長戦略の推進

中期経営計画
「Vision 2013」
2012年3月期-2014年3月期

中期経営計画
「Evolution～限りなき進化～」
2015年3月期-2017年3月期

- ・ビジネスモデルの進化
- ・国際展開の加速
- ・グループシナジーの発揮
- ・新規事業の継続的創出
- ・外部成長戦略の推進

中期経営計画
「Breakthrough for the Next Decade
～今を超え、新たな10年へ～」
2018年3月期-2020年3月期

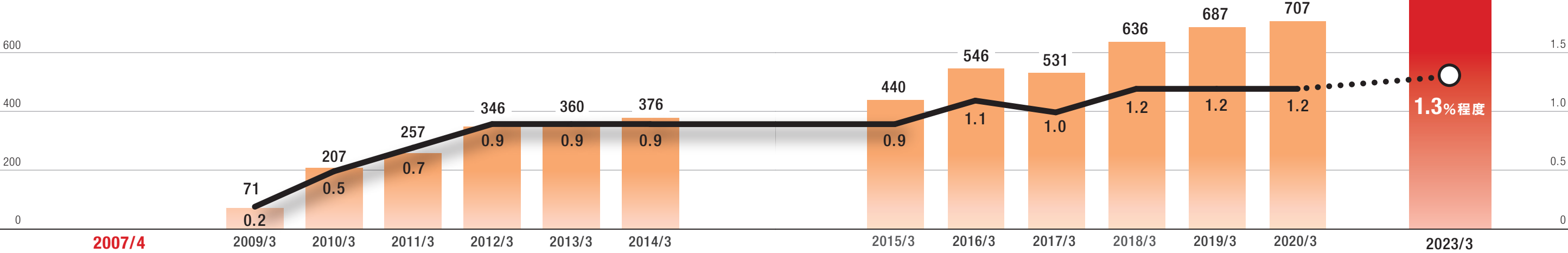
- ・金融と事業の融合
(社会的課題の解決型事業、ビジネスモデルの進化による事業参画、事業運営への展開)
- ・トップライン経営と効率経営の両立

中期経営計画
～Sustainable Growth 2030～
2021年3月期-2023年3月期

P12、P20

親会社株主に帰属する
当期純利益

(億円)
800



主な取り組み

2007/4
ダイヤモンドリース株式会社とUFJセントラルリース株式会社が合併し、「三菱UFJリース株式会社」が誕生

2013/11
オートリース会社PT. Takari Kokoh Sejahteraを子会社化

2013/1
航空機リース会社Jackson Square Aviation, LLCなどを傘下に持つJSA International Holdings, L.P.を子会社化

2015/10
MUL エナジーインベストメント株式会社を設立

2014/5
米国The Greenbrier Companies, Inc.と戦略的業務提携
2014/11
航空機エンジンリース会社Engine Lease Finance Corporationおよび海上コンテナリース会社Beacon Intermodal Leasing, LLCを子会社化

2016/4
MULリアルティインベストメント株式会社およびMUL不動産投資顧問株式会社を設立
2016/10
日立キャピタル株式会社と資本業務提携
2016/12
MULヘルスケア株式会社を設立

2017/6
ドイツにおける洋上風力発電所向けの海底送電事業へ参画
2017/6
航空機エンジン・パーツアウト事業へ参入

2018/5
MULユーティリティーイノベーション株式会社を設立
2018/7
英国水道事業会社South Staffordshire Plcへ出資
2018/11
英国における洋上風力発電事業へ参画
2018/12
米国販売金融事業会社ENGSHoldings Inc.を子会社化
2019/3
MUL不動産投資顧問株式会社が設立した私募REIT「MULプライベートリート投資法人」が運用を開始

2019/5
インドネシアでのオートオークション事業開始に向け、インドネシアのタクシー運営会社最大手PT. Blue Bird Tbk.との合併でPT. Balai Lelang Careadyを設立
2019/7
東南アジア デジタルプラットフォーム運営大手GOJEKへ出資
2019/7
英国配電事業会社Electricity North West Limitedに出資
2019/10
台湾・洋上風力発電に係る海洋調査関連会社への出資

進化を続ける三菱UFJリースグループのビジネス

アセットに対する知見を活かして国内外
で事業領域を拡大

三菱UFJリースグループは、コア事業であるリース・ファイナンスを通じて「アセット」に関する知見・ノウハウを蓄積し、強みを活かしてさまざまな事業へと取り組みの幅を広げています。

中古機器売買



太陽光発電事業



不動産賃貸事業



2021年3月期～2023年3月期
中期経営計画

~Sustainable Growth 2030~

「アセットビジネスの
プラットフォームカンパニー」
への進化

2018年3月期～2020年3月期
中期経営計画

Breakthrough for the Next Decade

～今を超え、新たなる10年へ～

新たな価値創造

- 資産回転型ビジネスの推進
- 事業運営モデルの実現

2015年3月期～2017年3月期
中期経営計画

Evolution ～限

りなき進化～

収益機会

の拡大

- 国際展開の加速
- 事業参画

2012年3月期～2014年3月期
中期経営計画

Vision 2013

バリューチェーン上の
提供機能拡大

- グローバルアセット事業展開の加速
- 高付加価値サービスの提供

2007年4月

三菱UFJリース誕生

コア事業
リースビジネス

オペレーティングリース



プロジェクトファイナンス



レンタル・シェアリングビジネス



財務・非財務ハイライト

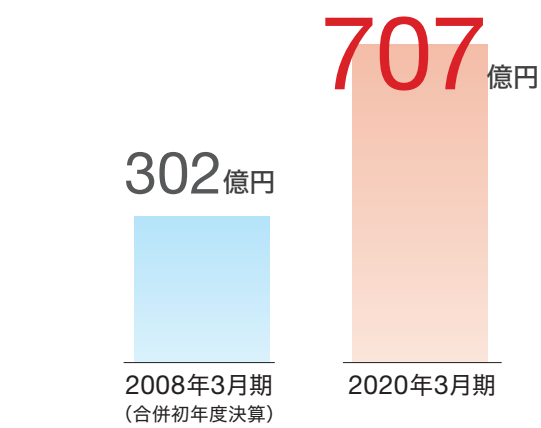
財務ハイライト

■ 売上総利益

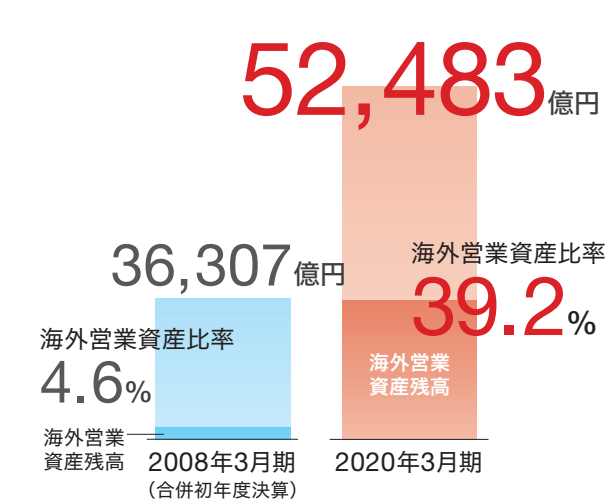


コーポレートファイナンス中心の事業から、アセットファイナンス、サービス提供、事業参画、事業運営へとビジネスモデルを進化させ、事業領域の拡大を続けてきたことにより、収益力は着実に向上しています。2008年3月期と比較して、2020年3月期の売上総利益は約1.7倍、親会社株主に帰属する当期純利益は約2.3倍に伸長しました。

■ 親会社株主に帰属する当期純利益



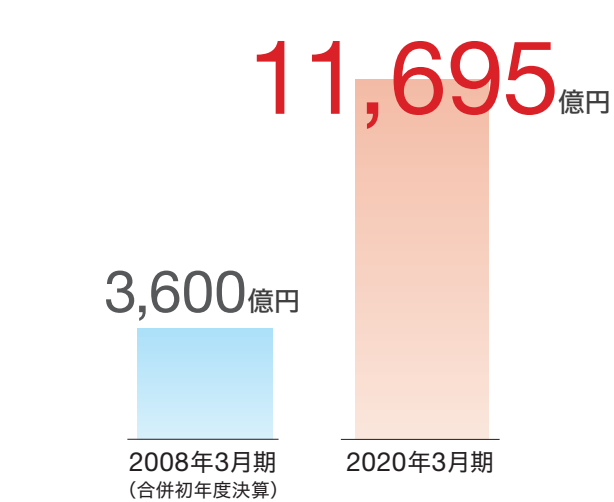
■ 営業資産残高※および海外営業資産比率



航空機、航空機エンジン、海上コンテナ、鉄道貨車などを強化したことなどにより、海外の営業資産残高は2008年3月期の約12.4倍と大幅に増加しました。営業資産全体に占める海外営業資産比率は、4.6% から39.2% へと伸長しました。

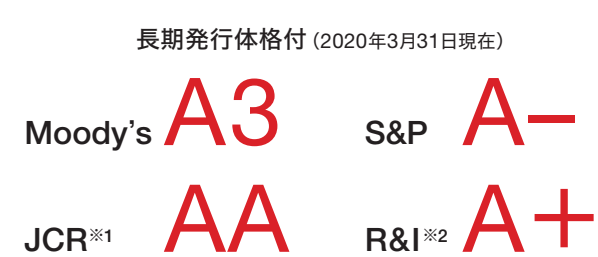
※ 2021年3月期第1四半期決算より定義変更のため、2020年3月期決算概要資料記載の数値と相違があります。

■ 社債発行残高



海外ビジネスの拡大に伴い、社債の発行通貨も多様化しています。現在までに4種類の外貨建て社債（米ドル、人民元、タイバーツ、インドネシアルピア）を発行しました。

■ 外部格付



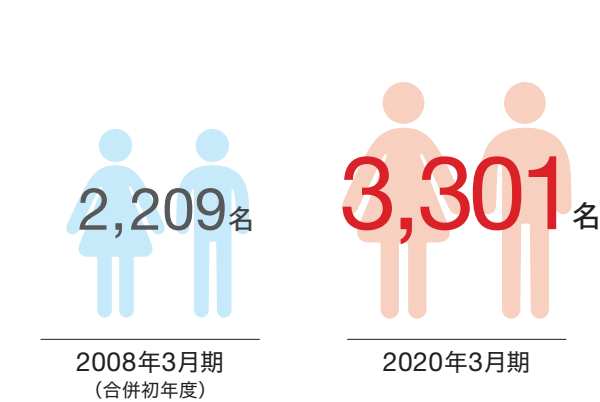
企業信用力の評価として左記の4社から信用格付を取得しており、業界トップ水準の評価を受けています。さらなる事業拡大を目指すにあたり、その競争力の源泉となる資金調達力の維持・向上に引き続き努めます。

※1 JCR：日本格付研究所

※2 R&I：格付投資情報センター

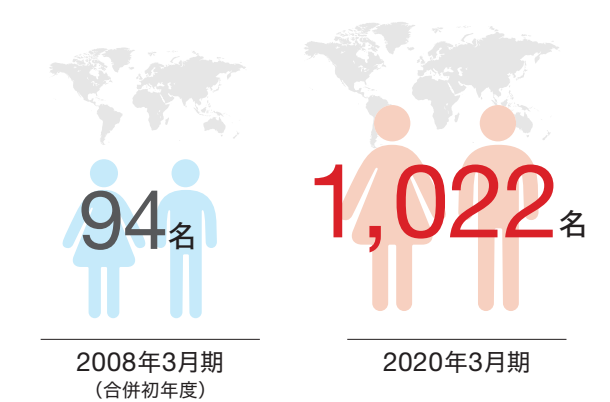
非財務ハイライト

■ 連結従業員数

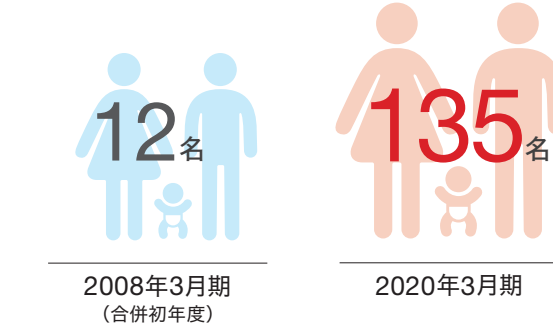


事業領域の拡大に伴い、グループ会社従業員数は約1.5倍に増加しました。中でも、海外で働く従業員数は、海外事業の積極展開により2008年3月期の約10.8倍と大幅に増加しています。高い専門性を持つ多様な人材を国内外に擁する三菱UFJリースグループは、これからも一丸となってお客さまや社会が抱える課題解決に挑み続けます。

■ 海外で働く連結従業員数

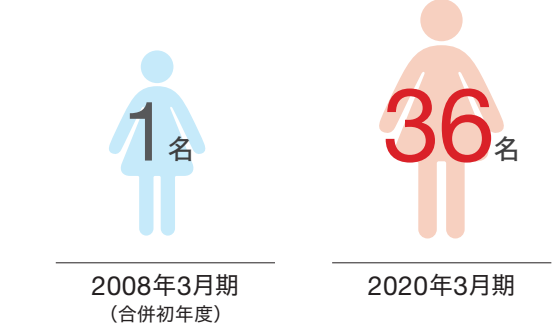


■ 育児休業取得者数



働き方の多様化に応じた労働環境の整備を進めています。男性社員の育児休業の取得も徐々に増加し、育児休業取得者数は約11.2倍になりました。

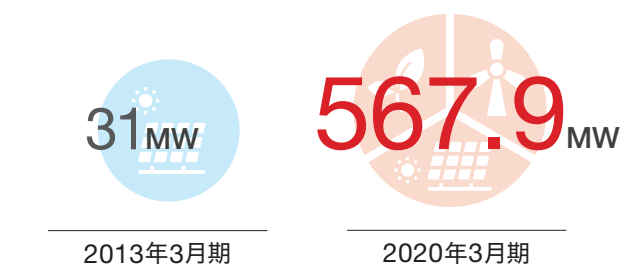
■ 女性管理職数



さまざまな研修などを通じて女性の活躍を推進しており、女性管理職数は着実に増加しています。

■ 再生可能エネルギー出力数※

※ 運転開始済みプロジェクトの総出力数(抛却持分に依りて案分した値)



事業を通じて「環境負荷の少ない持続可能な社会の実現」に貢献しており、主軸である太陽光発電のほか、バイオマス発電、風力発電を含めた再生可能エネルギー出力数は2013年3月期の18.3倍となりました。

外部からの評価

FTSE Russell

社会的責任投資(SRI)の世界的代表指数である「FTSE4Good Index Series」の構成銘柄に2006年より連続で採用されています。加えて、グローバルインデックスプロバイダーであるFTSE Russellが「開発した、環境、社会、ガバナンス(ESG)の対応に優れた日本企業のパフォーマンスを反映する指数である「FTSE Blossom Japan Index」の構成銘柄にも選定されています。

MSCI

モルガン・スタンレー・キャピタル・インターナショナル(MSCI)が開発した SRI インデックスで、特にESGに優れた企業を選定する「MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数」および「MSCI日本株女性活躍指数」の構成銘柄に選定されました。また、「MSCI ESG Leaders Indexes®」に、当指数の算出年である2007年より連続で採用されています。

※ 旧 MSCI Global Sustainability Index Series

